

2024年度 第2四半期 決算説明会

株式会社IMAGICA GROUP
証券コード：6879

2024年11月13日



※2024年度 = 2025年3月期

本日のご説明内容

I. 2024年度 第2四半期決算総括と通期業績予想の修正

取締役専務執行役員 森田 正和

II. 事業ポートフォリオ変革の取り組み

代表取締役社長 社長執行役員 長瀬 俊二郎

本日のご説明内容

I. 2024年度 第2四半期決算総括と通期業績予想の修正

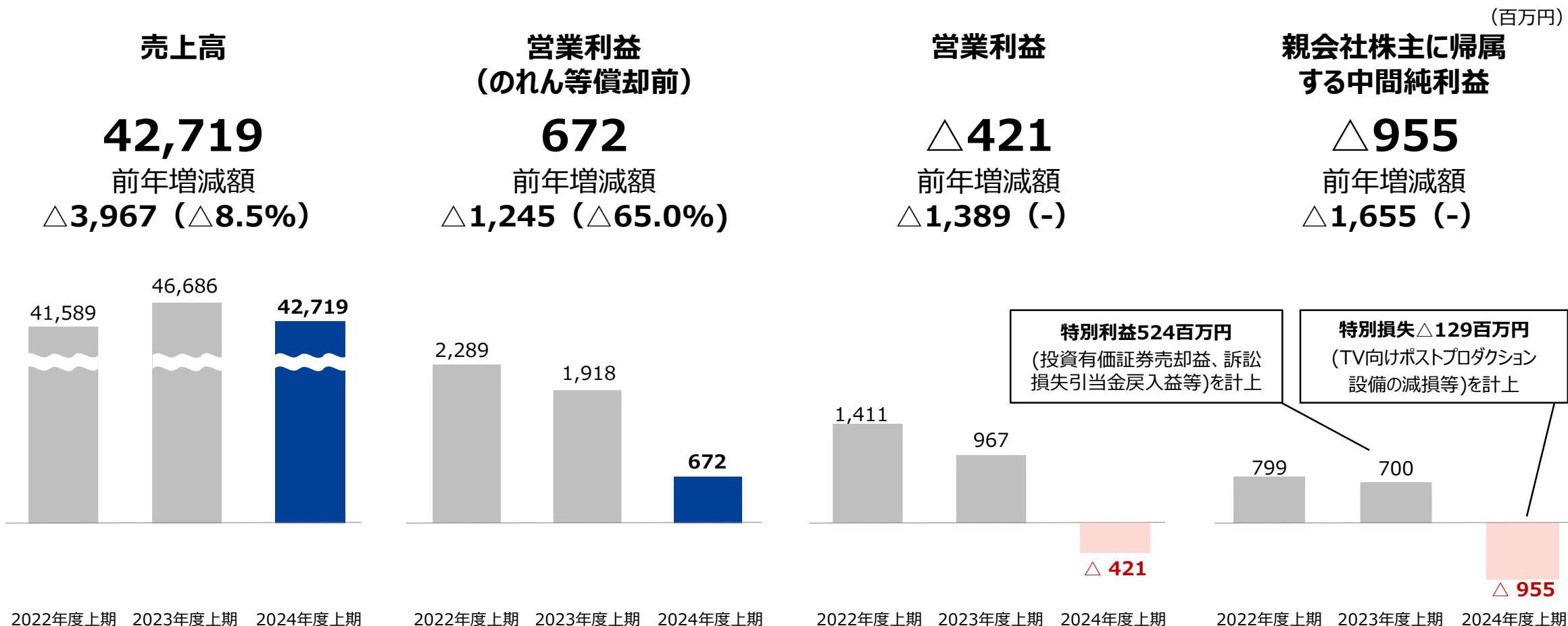
取締役専務執行役員 森田 正和

II. 事業ポートフォリオ変革の取り組み

代表取締役社長 社長執行役員 長瀬 俊二郎

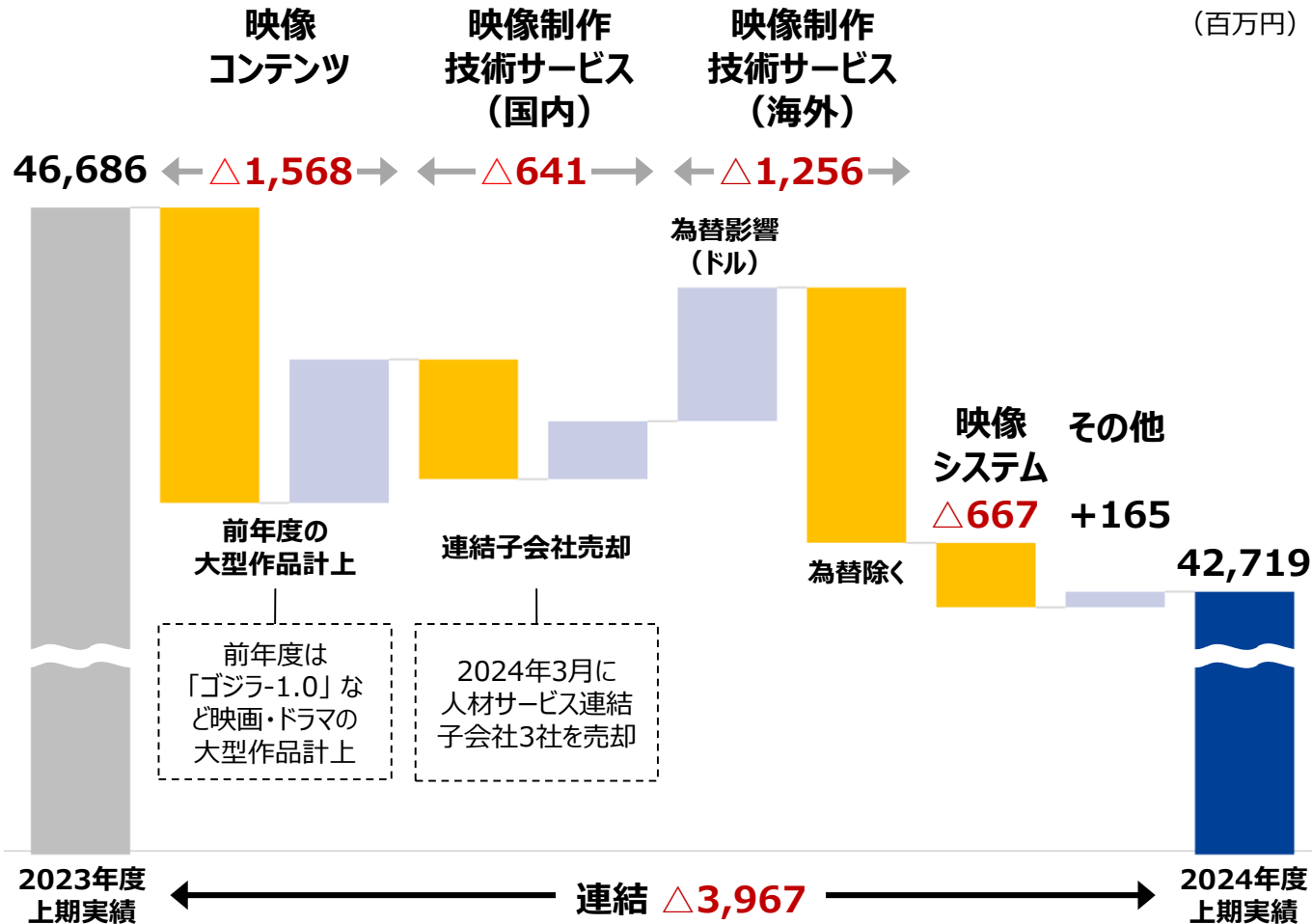
決算ハイライト

- ・国内事業は好調も、海外事業は苦戦し、連結では減収減益
- ・海外事業の営業赤字の影響は大きく、連結では営業損失、純損失を計上



売上高 前年増減分析

・海外事業は減収、国内事業は連結子会社売却や前年度の大型作品計上の反動を除けば増収



増減分析

映像コンテンツ

- TV向けCM制作好調
- 「薬屋のひとりごと」の原作小説・コミックの販売好調、TVアニメ制作委員会からの配分金収入等計上
- 制作映画の成功報酬計上

映像制作技術サービス (国内)

- 映画編集サービスやデジタルシネマ向けサービス好調
- ゲーム関連事業は制作体制の規模を拡大し、3DCG制作の受注好調
- TV向けポストプロダクションサービスは番組向けの受注低調

映像制作技術サービス (海外)

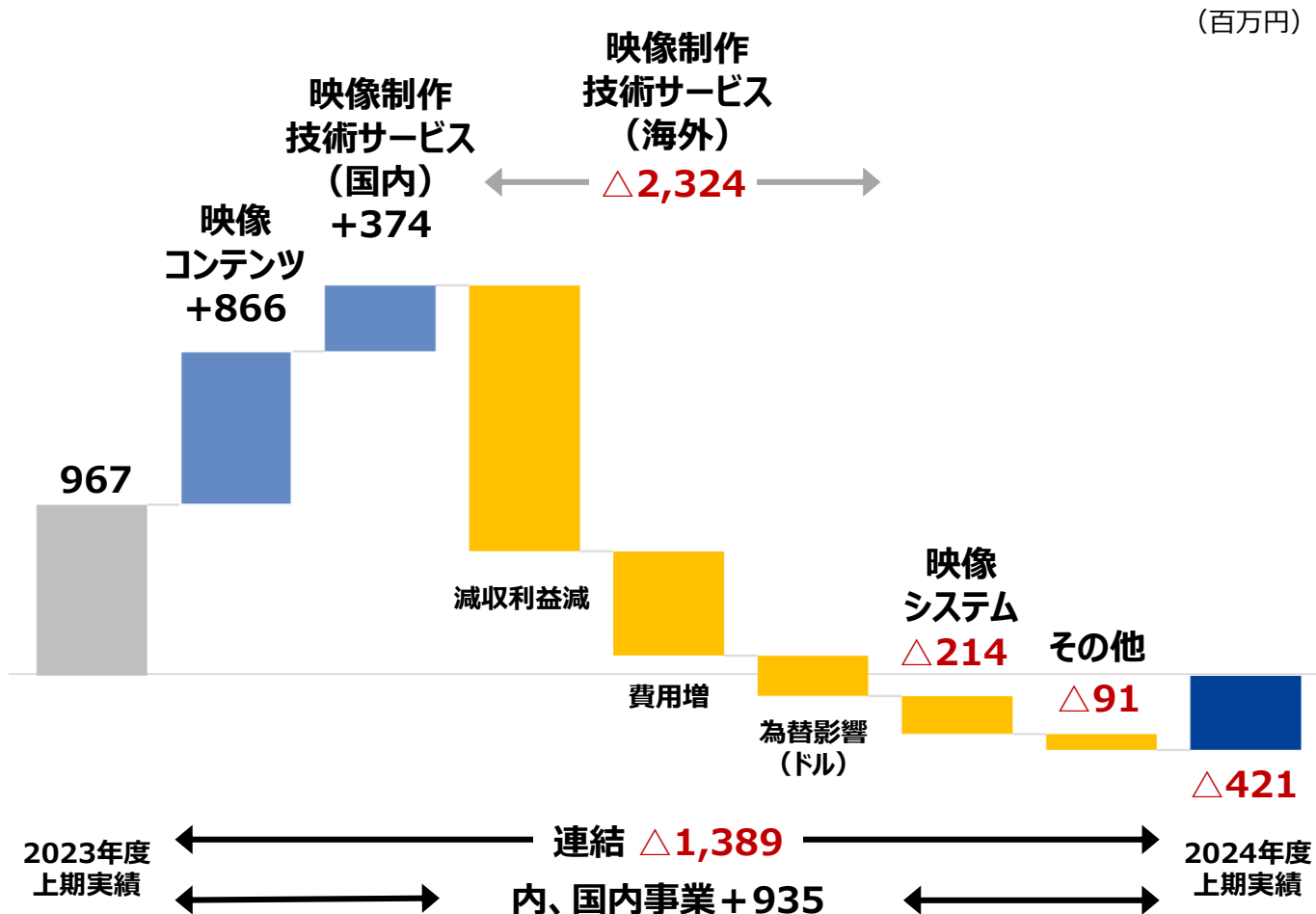
- 円安による増収効果があるも、ローカライズの受注は前年度の水準には戻らず、減収

映像システム

- ハイスピードカメラは中国除く海外・国内向けは好調も中国向けは減速
- 放送映像システムは前年度の大型案件計上の反動で減収

営業利益 前年増減分析

- 国内事業は主に映像コンテンツの好調に支えられ増益
- 海外事業は減収による利益減に加え、費用増・為替影響で大幅減益



増減分析

映像コンテンツ

- TV向けCM制作が増益
- アニメ制作はTVシリーズやCGアニメ作品の寄与で利益改善
- 出版事業が好調（書籍販売、コミカライズロイヤリティ、TVアニメ制作委員会からの配分金収入等）
- 制作映画の成功報酬計上

映像制作技術サービス（国内）

- 映画編集サービスやデジタルシネマ向けサービス、ゲーム関連事業、が増益
- TV向けポストプロダクションサービスが減益

映像制作技術サービス（海外）





- 減収による利益減に加え、前年度の拠点拡張に伴う費用増、円安による減益効果もあり、大幅な減益

映像システム

- ハイスピードカメラ、放送映像システムの減収等で減益

セグメント別見通し対比

- 映像コンテンツ、映像システムは見通しに対し順調も、映像制作技術サービスの海外事業の悪化が想定を超え、連結では営業利益は見通し未達

(百万円)		2023年度 上期実績	2024年度 上期実績	前年増減	見通し対比 営業利益	見通し差異要因
映像コンテンツ	売上高	12,770	11,201	△ 1,568		<ul style="list-style-type: none"> 出版事業が好調（書籍販売、コミカライズロイヤリティ、TVアニメ制作委員会からの配分金収入等） アニメ制作はコスト管理が進み利益率向上
	営業利益（のれん等償却前）	91	960	868		
	営業利益	89	955	866		
映像制作 技術サービス	売上高	26,913	25,016	△ 1,897		<ul style="list-style-type: none"> 海外事業の需要が想定水準を大幅に下回る TV向けポストプロダクションサービスの受注が低調
	営業利益（のれん等償却前）	1,723	△ 85	△ 1,809		
	営業利益	793	△ 1,156	△ 1,950		
映像システム	売上高	8,094	7,427	△ 667		<ul style="list-style-type: none"> ハイスピードカメラは、中国向けの販売は減速も、その他海外向けの販売は堅調
	営業利益（のれん等償却前）	689	475	△ 214		
	営業利益	671	457	△ 214		
連結合計	売上高	46,686	42,719	△ 3,967		
	営業利益（のれん等償却前）	1,918	672	△ 1,245		
	営業利益	967	△ 421	△ 1,389		

2024年度 通期業績予想

詳細は、2024年10月31日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」を参照ください

- ・映像制作技術サービスの海外事業の悪化と映像コンテンツの好調を織り込み、業績予想を修正
- ・安定配当の方針から、1株当たり配当金は変更なし

(百万円)	2023年度	2024年度				
	実績	5月9日 業績予想	今回 修正予想	5月9日比 増減額	2023年度比 増減額	2023年度比 増減率
売上高	99,684	98,000	96,000	△ 2,000	△ 3,684	△ 3.7%
営業利益 (のれん等償却前)	5,901	5,800	3,400	△ 2,400	△ 2,501	△ 42.4%
(利益率)	5.9%	5.9%	3.5%			
営業利益	3,924	3,700	1,200	△ 2,500	△ 2,724	△ 69.4%
(利益率)	3.9%	3.8%	1.3%			
経常利益	3,727	3,200	800	△ 2,400	△ 2,927	△ 78.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,373	2,000	△ 900	△ 2,900	△ 3,273	-
1株当たり当期純利益 (円)	53.57	45.25	△ 20.36	△ 65.61	△ 73.93	-
1株当たり配当金予想 (円)	15.0	15.0	15.0	0.0	0.0	

2024年度 セグメント別業績予想

・映像制作技術サービスの海外事業の悪化と映像コンテンツの好調を織り込み

(百万円)		2023年度	2024年度			2023年度比 増減額
		実績	5月9日 業績予想	今回 修正予想	5月9日比 増減額	
映像コンテンツ	売上高	28,186	24,300	25,300	1,000	△ 2,886
	営業利益	1,276	1,310	1,660	350	384
映像制作 技術サービス	売上高	53,967	55,100	52,100	△ 3,000	△ 1,867
	営業利益	1,430	1,350	△ 1,500	△ 2,850	△ 2,930
映像システム	売上高	19,756	20,300	20,300	0	544
	営業利益	2,404	2,270	2,270	0	△ 134
連結合計	売上高	99,684	98,000	96,000	△ 2,000	△ 3,684
	営業利益	3,924	3,700	1,200	△ 2,500	△ 2,724

予想比増減内訳

映像コンテンツ

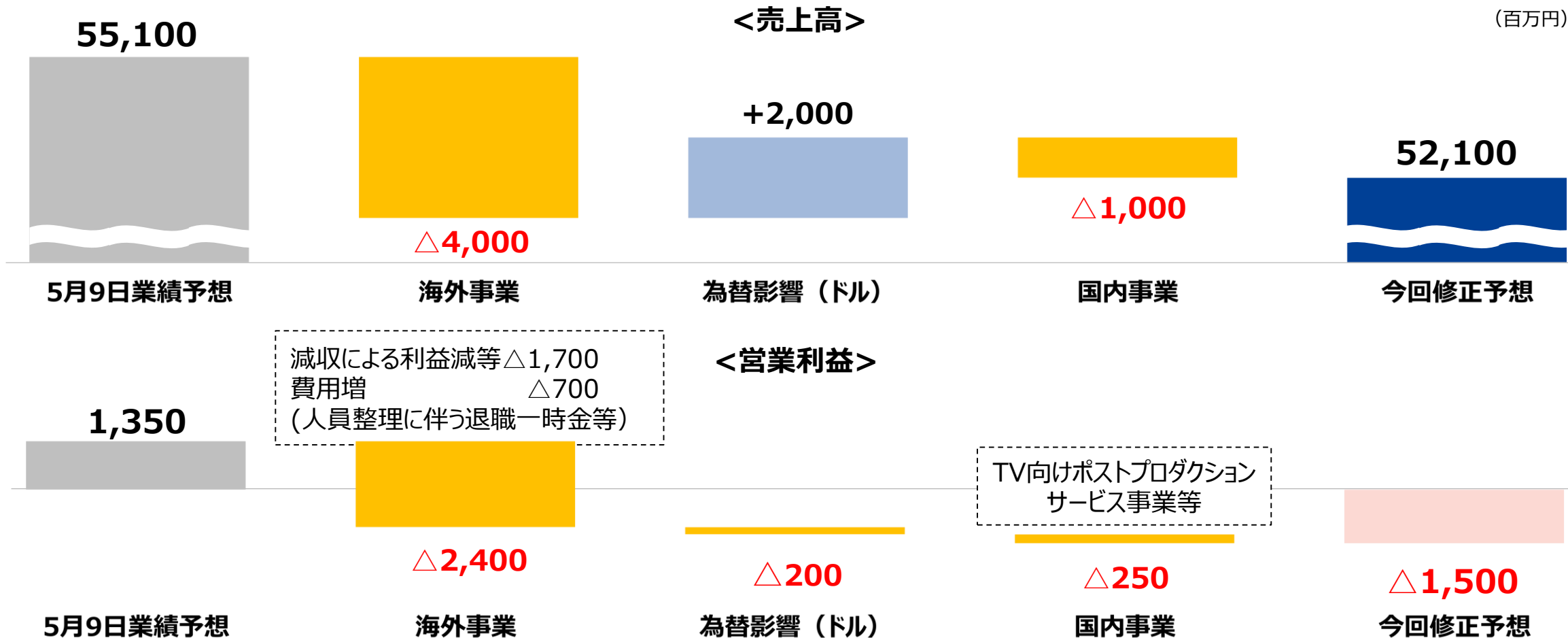
- ・ 出版事業が好調（書籍販売、コミカライズロイヤリティ、TVアニメ制作委員会からの配分金収入等）
- ・ アニメ制作はコスト管理が進み利益率向上

映像制作技術サービス ※詳細次頁

- ・ 海外事業とTV向けポストプロダクションサービスが前回公表を下回る見込み
- ・ 海外事業は需要が想定水準を大幅に下回り、為替込みで売上高と営業利益は前回公表を下回る見込み
- ・ このような状況に対処するため、人員整理等によるコストダウンをすでに開始し、収益改善に注力中

映像制作技術サービス 通期予想比増減内訳

- 海外事業は営業赤字のため、為替変動（ドル）は売上高にはポジティブなのに対し、営業利益にはネガティブ



本日のご説明内容

I. 2024年度 第2四半期決算総括と通期業績予想の修正

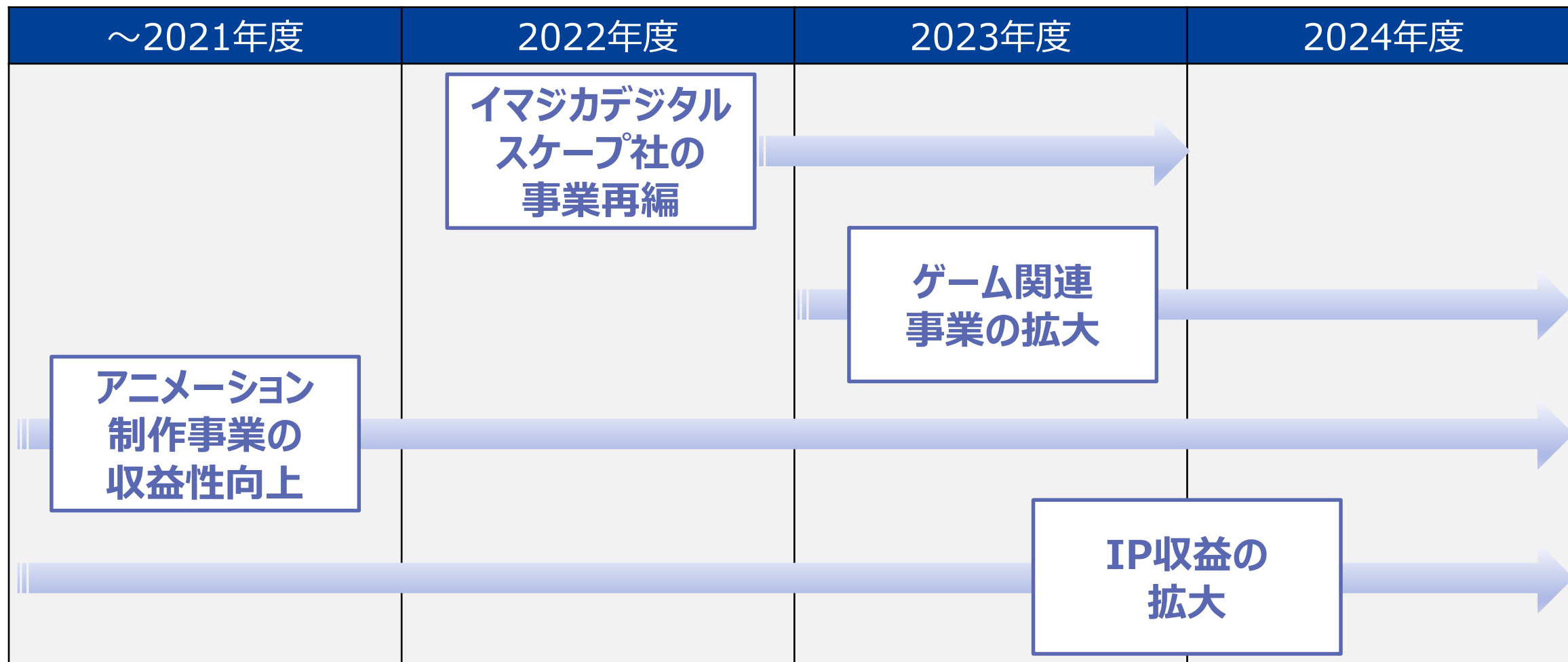
取締役専務執行役員 森田 正和

II. 事業ポートフォリオ変革の取り組み

代表取締役社長 社長執行役員 長瀬 俊二郎

これまでの取り組み

- 当社はこれまでも、事業環境の変化に応じて、様々な事業ポートフォリオ変革に取り組み、事業拡大や収益性の改善を実現



イマジカデジタルスケープ社の事業再編

- ・2023年度からイマジカデジタルスケープ社の事業再編を加速し、Web映像関連・人材マネジメント事業は第三者に売却、ゲーム関連事業はグループに取り込む

～2023年3月

2023年4月

2024年1-3月

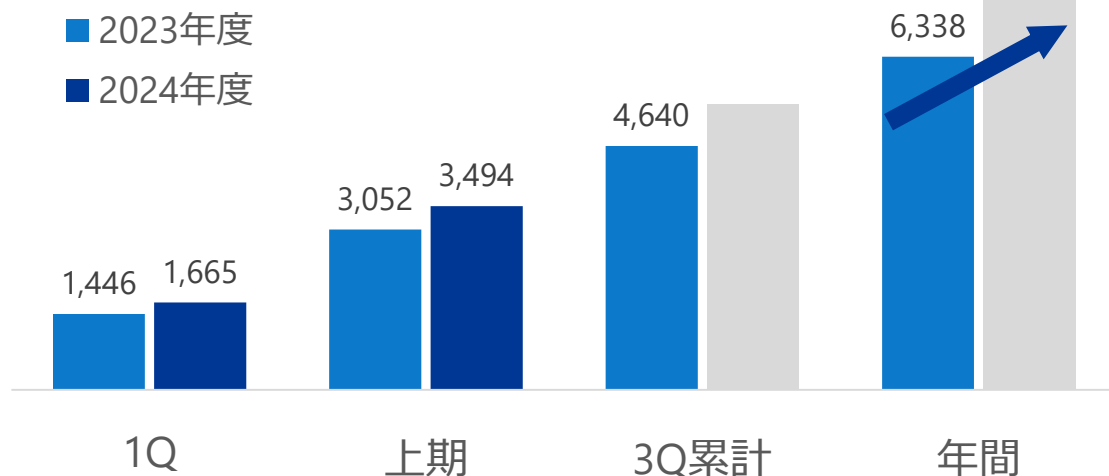


ゲーム関連事業の拡大

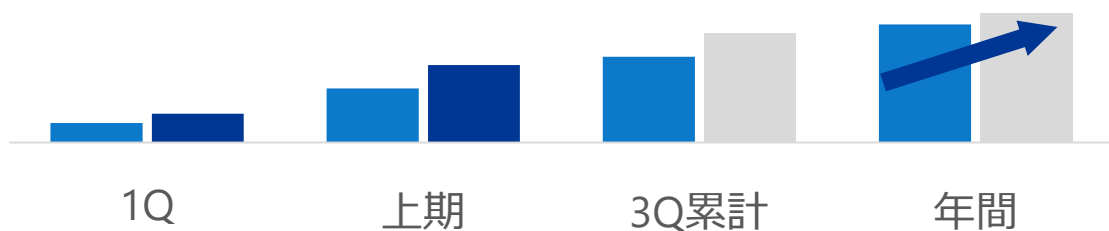
- 2023年4月の分社化以降、3DCG制作が牽引し、ゲーム関連事業の売上高、営業利益は継続して伸長

<売上高>

(百万円)



<営業利益>



IMAGICA GROUP

開発事業会社のM&A：上流工程を強化 英国US社との業務提携：海外展開の足掛かり



グローバル展開の加速(海外クライアントの案件獲得)

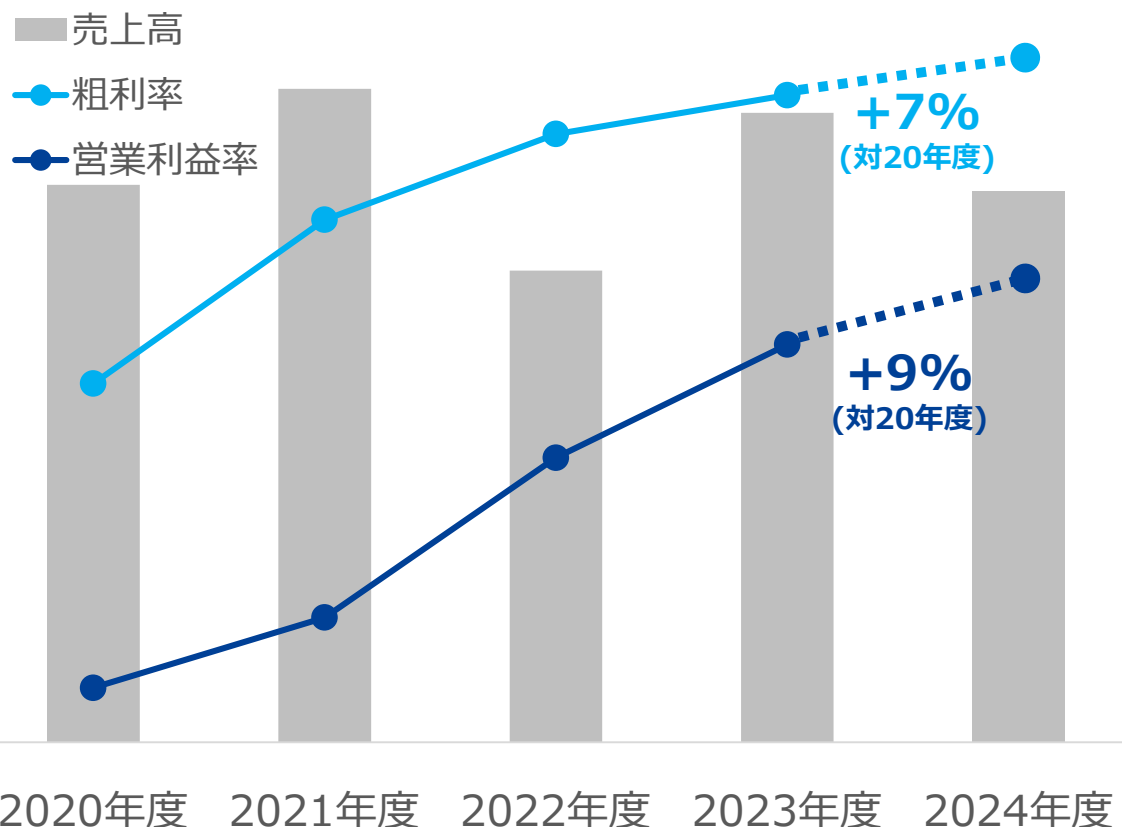
- 業務提携した英国US社経由で海外案件を獲得、グループ各社と連携し対応



アニメーション制作事業の収益性向上

- アニメーション制作事業は、過去4年間で売上高の増減に関わらず、利益率は継続して上昇
- 2024年度も上昇を見込む

<アニメ制作子会社 売上高／利益率>



収益性向上の取り組み

- アニメ制作の強い需要が続く中、商談段階から収益性を見極めて受注
- プロジェクト管理を強化し、外注費を抑え、内製化率を上昇
- 『ポケットモンスター』シリーズなどの子供向けアニメ制作で培った実績を背景に交渉力向上

IP収益の拡大

- 2019年のヒーロー文庫のIP取得から4年をかけ、『薬屋のひとりごと』を軸とした利益率の高いIP収益が拡大

<出版事業子会社 IP収益>



©日向夏/イマジカインフォス イラスト:しのとうこ

2019年

主婦の友インフォス社
(現イマジカインフォス社)
子会社化
ヒーロー文庫のIP取得

2022年度

2023年度

2023年11月
TVアニメ
『薬屋のひとりごと』
第1期放送開始

2024年度

2025年1月
TVアニメ
『薬屋のひとりごと』
第2期放送開始予定

2025年度

配分金
収入等

コミカライズ
ロイヤリティ

2025年度以降も
TVアニメ『薬屋のひとりごと』
第2期放送によるIP収益を見込む

2024年度の取り組み

海外E2E事業

**TV向けポストプロダクション
サービス事業**

**業績の悪化しているこれら事業は、
2024年度に変革を実施し、
2025年度から収益性の改善を目指す**

TV向けポストプロダクションサービス事業

- ・収益性の改善に向けた、原価・販売管理費の合理化策を推進中

テレビ市場	<ul style="list-style-type: none">・ OTTやインターネット利用の増加にともなうテレビ離れで、テレビ市場はマイナス成長
TVポストプロ 主要顧客	<ul style="list-style-type: none">・ 長寿バラエティ番組の終了、番組数の減少・ 番組制作費の減少・ 主要顧客の内製化の推進
競合他社	<ul style="list-style-type: none">・ 薄利または赤字の経営状況・ 機材の低価格化により参入障壁は低下、フリーランス化の進行
当社現状	<ul style="list-style-type: none">・ 業務シフト見直し ⇒ 優秀なエディターの離職・顧客離れ⇒ 稼働率低下・原価上昇・ 番組数減少 ⇒ 長寿番組の終了をカバーする新番組の受注が難航・ 上期決算で関連設備の減損損失を計上（127百万円）
取り組み	収益性の改善に向けた、原価・販売管理費の合理化策を推進中

海外E2E事業（現状認識と対策）

現状認識

事業環境の変化に合わせた適正な人員配置が必要

対策

2024年に2回の人員整理を実施(事業/管理部門)

2024年6月実施（90名）

2024年10月実施（70名）

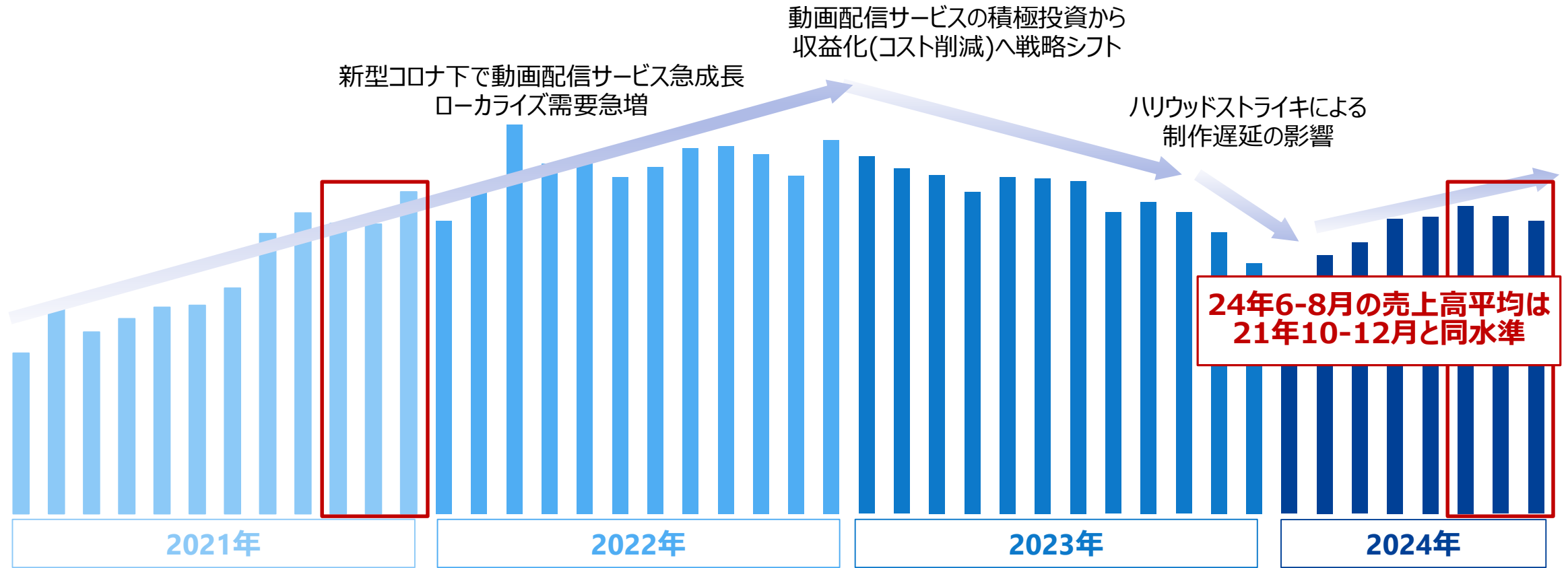
→2回の人員整理で年間約13百万ドルのコスト軽減

海外E2E事業（売上高の推移）

- ハリウッドストライキの影響は2024年1月を底に終息したが、動画配信サービスの環境変化の下、2024年6-8月の売上高平均は2021年10-12月の水準までしか回復せず

＜米国子会社 売上高＞

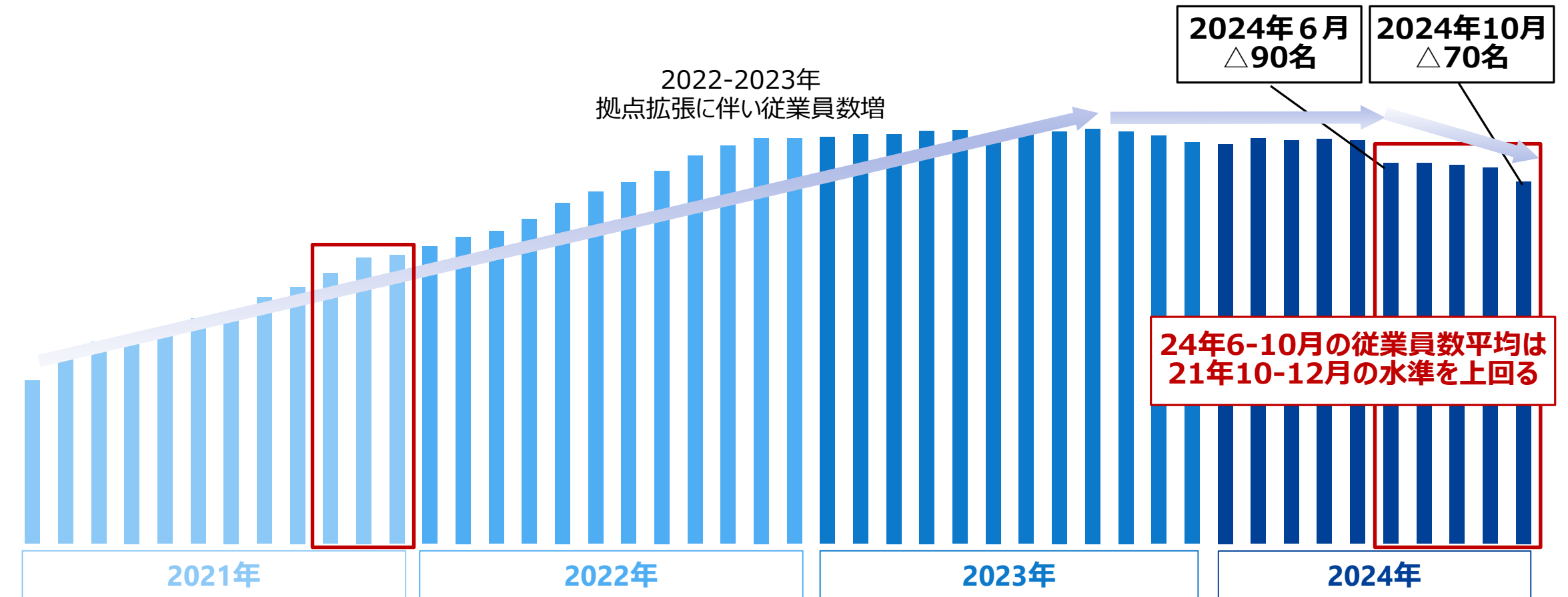
(ドル)



海外E2E事業（従業員数の推移）

- 2022年-2023年の拠点拡張で従業員数は増加。2024年6月/10月で160名の人員整理実施も、2024年6-10月の平均従業員数は、2021年10-12月の水準を大きく上回る

＜米国子会社 従業員数＞

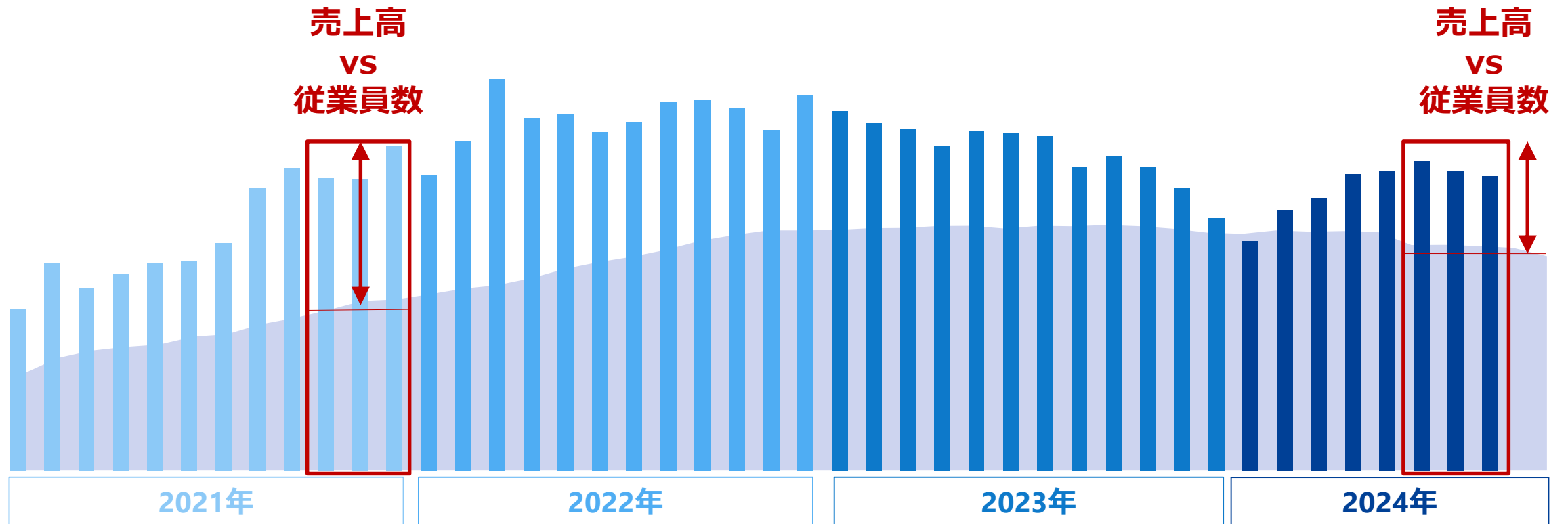


海外E2E事業（売上高と従業員数の関係）

- 2024年6月と10月で160名の人員整理を実施したが、売上高比ではまだ整理の余地あり
⇒今後も事業サイズの変化に応じて、人員整理等のコスト削減を適宜実施し、利益体質を確保

(ドル)

<米国子会社 売上高(棒グラフ)/従業員数(網掛けグラフ)>



IMAGICA
GROUP